



天橋立名松リバーズ
だより

No.12
2005年12月号

編集・発行

天橋立名松リバーズ
実行委員会事務局

〒690-0001 鳥取県鳥取市大塚4-3-7
TEL 0772-2215304
FAX 0772-2215305
http://www.hanagata.org/japanese.html

■名松(天橋立)と

縄文杉(屋久島)との出会い

12月5日(月)

屋久杉の姿を守り、「世界自然遺産」屋久島の
今日をつくった柴 鐵生氏

(屋久島観光協会長・上屋久島町議会議員) 来稿
名松リバーズと交流!

12月5日、遠く鹿児島県屋久島から柴 鐵生氏・クラブツリズム 関西エリアアドバイザ「宮本茂樹氏・(株)関西総合研究所 主任研究員宮本三郎子氏、三人がリバーズの交流に来稿され、リバーズ総見学の傍、懇談・歓迎会を開催しました。リバーズ実行委員会からは、柴世委員長・稲葉・細井両副委員長・山本事務局長・小田・島村両顧問が参加しました。

とこまで、縄文杉の屋久島は、平成5年12月、日本で初めて「世界自然遺産」に登録されましたが、その経過は大抵のことではありませんでした。屋久杉の伐採から縄文杉を守り、子孫のために森を守ろうとする人々の血と汗の努力の結果でもあったのです。

「高度成長」の下、昭和30年代、40年代の20年間は、80%が国有林とあり、屋久杉が大伐採されました。昭和46年がピークで原生林の50%以上が切り倒されたのです。そんな中、当時、若者だった柴さん・兵頭ご夫妻らが「屋久島を守る会」を最初は5人で結成し、「故郷の森を子孫のために残そう」との運動をおこされたのです。その熱い情熱が地元と国を動かしたのです。柴さんから面にお話を聞かせていただき、「同共鳴すると共に、多くのことを教わりました。近いうちに屋久島での再会と、今後共の交流を約束し、翌日みんなでおい送りしました。



天橋立ビューランド 柴



リバーズ総見学を見学される柴さん

「この屋久島でのドラマは、NHKのラジオドラマでも「故郷の森を森を守れ」世界遺産「屋久杉の森」として取り上げられました。ご覧になりたい方は、そのCDが有りますので、事務局まで申し込んでください。

◎柴 鐵生さんからお便り

言葉に言い表せない感動を、沢山沢山いただきました。昔懐には大変なものでなしをいただきました。

有難いな旅を終え十日に帰島いたしました。十三日から編会が始まりゆくりと時間をとれませんが、取り急ぎ雑文をお届けいたします。私達の運動の歴史をと思ひ拙文も同封いたします。

「成心なく誘われるままにお邪魔した宮原の町は、雪と地蔵を拝むがす音鳴が響く驚天動地の異境でした。雪一そして歴史と人々の深い思いに彩られた街の香は、ゆ々としたこちよさで肺腑にしみわたるようでした。

リバーズ委員会の取りくみと皆様の思いや情熱と行動力には只々感服するのみでしたが、音鳴が響く天の下、布団の中でまんじりともせずあれこれを感じました。台風で木が倒され、枯れることは日本列島に生まれ育つ私たちがはるかな昔から経験し続け慣れ親しんだ光景であり、その事自体は深更に悲観すべき事ではない筈です。百年足らずの人の生命や、数百年を越えることのない松の生命に対する思いの深さは、人間の豊かさの本質に關わるものでしょうが、生命のあるものはいつかは滅するものという覚悟の内の生命観や死生観からすれば何程のことがあろうか。

時代が速えは倒れた木を挽き削りして燃料に使い、小川を脱ぎ河を渡る材として使うであらう昔の人の喜びを付戻したりして、自然の恵みを物としてドラスティックに關わる豊かさを戻すべく思つたりします。

天橋立の名松がなぎ倒されたことに人々が抱く衝動は例木という現象の裏に皆む別々の理由によるのではないかと、この時代を生きる私たちの不確さや寄立ではないのかとも思いました。人命や木の生命などは、はかなく限られた生命と、その生命を育む大地大海の大自然とが共生する確かな絆を持ってない不安やもどかしさに由るのではないのか……。

リバーズの取りくみはとつてもすばらしいものだと思います。リバーズされる生命の中に昔より名松に対して抱かれた様々な思いを伝承すること、その伝承の過程で自然と人間が共生することの現代的意味と方法「在りよう」が明らかになり昔で共有できたらと皆様の活動とその成果に大きな期待をし夢をふくらませます。

三、八キロに広がる松原の世界は、素足で歩いて自然を、歴史を、人々の思いを、学び感じる場だと思いました。千年を越える時をさかのぼり千年をこえる人々の思いに触れるかけがえのない所。七千歩の歩みでも一万本の歩みでも、千年を越える時や人との語らひには只の一歩ですらありません。」

※柴さんがお帰された12月5日は、残念ながらこの日お便りが届きませんでした。

■ 11月25日(金)

第4回 京都観光ブランド

推進研究会に参加

11月25日(金) 京都キャンパスプラザ会場で、午後4時から京都観光ブランド推進研究会が開催され、發世委員長、細井ビジョン部会長が出席。リパス活動中間報告書の完成を報告し、出席委員や京都府商業観光課に手渡してきました。各委員は報告書のポリシーに先ず驚かれ、その中味の優さやバラエティに富んだ内容に盛んに感心しておられました。ことを報告しておきます。

この会場は、委員持ち回りで自らが選抜したテーマについてプレゼンを行い、その後各委員がそのテーマについての質疑応答を中心にディスカッションするという形式で行われていたものです。(ちなみに、九月の研究会は天橋立名松リパス活動についてのプレゼンでした。)

今回は、近畿日本ツーリスト社員で日本イベント業務管理者協会理事の松田充史氏の「旅行会社と観光プロモーション事業について」というテーマで、自身体と業者間のまちづくりや観光客の誘致などの事例についてのプレゼンが行われました。

その中で印象に残ったことを一つ、これからの地域間競争に勝ち抜くために必要なことは、信頼できる地域ブランドを確立させること、つまり地域のブランドディング活動が重要で急がれていることを感じました。

黒川温泉、屋久島、遠野市、内子町といった、現在、全国で注目を集めている地域を考えると、どの地域にも共通しているところがあります。それは、どこも他の地域とは違うはつきりとした独自性や優位性をブランドとして確立しているところであり、常にそれを発信し続けているところですが、そして、これが持続できる大きな要因が、住民や関係者の地域に対する誇りや愛情が溢れている点にあるという点です。

地域ブランドづくりには、ブランドを構築(つく)る(し)、そのブランドを管理(まも)る(し)、更にブランドを発信・拡張(つ)かう(し)する(し)という段階があり、どの段階にも地元住民の熱意と創意工夫が必要不可欠です。

この熱意が将来の天橋立や丹波地域のあり方を決定付けるものであることを考えれば、リパス活動の重要性が再認識され、改めて身が引き締まる思いがしました。

■ 11月12日(土)

京都伝統工芸専門学校

開校10周年記念式典に参加

11月12日(土) 京都伝統工芸専門学校開校10周年記念式典を祝して盛大な式典が行われ、名松リパス実行委員会から發世委員長・山本事務局長が参加しました。当日は、学生たちの作品展やバザールも行われ、天橋立の樹木松を活用した作品も数多く展示されました。



「京都伝統工芸専門学校 10年の歩み」より



「樹木松を活用した作品」



■ 11月27日(日)

京都府山田知事も視察

京都伝統工芸館(京都市)で、

制作中の「文殊菩薩」を披露

11月27日(日) 京都伝統工芸専門学校須藤教授、学生たちの手で制作中の「文殊菩薩」を、京都府山田知事が視察され、高さ約2000mm・幅630mm・奥行450mmの大きさで、一生懸命に制作する学生たちに感心されると共に、あたたかみ厨まじのことばをかけておられました。

来年3月初めには文殊菩薩が完成し、西恩寺さんに寄贈される予定ですが、今から楽しみです。同会場に、發世委員長も出席しました。



熱心に取り組まれる際に、山田知事も感心されておられました

12月7日(水)

宮津天橋立観光旅館協同組合青年部が
天橋立名松リバーバスをテーマに例会を開催!



寒い中、暖房器具もないリバーバス
で、熱心に研究する研修青年部
のみなさん

同青年部 徳田誠一 氏(清輝楼より)

レポートが届きましたので掲載します。

「リバーバス例会を開催して」

先日12月7日に宮津天橋立観光旅館協同組合青年部の例会の一環として、文珠のリバーバス館において安世傳紀氏を講師に例会を開催しました。旅館組合青年部のメンバーはこの名松リバーバス運動について、メンバーの中に幹事もいますし、これまでからも活動に参加するなど、様々なお手伝いをしてきました。が、青年部全体からすると部分的な情報しかもってないメンバーもいたため、このほどおさらいではないですが、台風発生時から今日にいたる経緯などを丁寧に伺いました。腰身の無いリバーバスは大変乗ったのですが、乗がっている我々メンバーに対して安世氏は懸念あふれるお話をして下さいました。それを受けて我々青年部が今後、大切にしたいポイントを整理してみました。①天橋立に一番お世話になっている我々がもっと積極的に天橋立に恩返しをしていこう。②先輩達が道をきいてくれた。この名松リバーバス運動を今後我々若者層がしっかりと受け継いで、その志をつなげていきたい。③さらにその志を同世代の若者の層に広く知らしめて共有したい。④今後のまちづくりについて、何か思いつきで発信するのではなく、地元の歴史文化にもとづいてやるべきなので、その意味で天橋立を心から大切にすることの名松リバーバス運動の志を継いでいきたい。など様々なことがあげられます。折しも全国の旅館組合青年部組織から台風被災の義援金をいただきましたので、それを名松リバーバス実行委員会に寄付させていただきたいと思えます。些少ですが、少しでも天橋立のために役立てたいと思えます。灯台もと暗し、ではないですが、近くにいるものほど天橋立や地元の歴史、文化遺産の素晴らしさがわからぬものです。我々若者層はもっと勉強しないとだめだなと感じました。

創作部会より

天橋立の倒れた松で作られたベンチを
町なかに活用しよう!!

昨年の台風23号によりなぎ倒された天橋立の松が、ベンチとなって蘇りました。これは、名松リバーバス実行委員会により製作されるもので、当面は30脚を予定しておりますが、希望者が多ければ順次増やします。ご希望の方は、左記をお読みの上お申し込みください。世界に2つと無い日本三景天橋立の松製ベンチです。「松の香りたたよう町づくり」をめざして今後も、案内標識・看板などの製作を予定しております。みんなで天橋立の松を大切にしたい町づくりを考えましょう。

— 申し込み条件 —

あくまでも観光の町づくりを活かす方法としてご提案させて頂きましたので、購入に際しては以下の主旨をご理解して頂ける方のみ申し込みをお願い申し上げます。

- (1) 観光のお客様や市民が気軽に腰をおろして休憩できるスペースにて使用。
- (2) 購入後のメンテナンスは、全て購入者の方でお願いします。
- (3) 代金の一部は、名松リバーバス基金として活用させて頂く事にご協力下さい。

※ 納期については、1ヶ月先になり
ます。事前に松材及びデザインを
ご検討下さい。
可並みを考え、統一したデザインで
考えておりますことを御理解ください。

- ・松ヤニが出て大丈夫なように、
座面にはビニールシートを貼ります。
- ・座面に名松リバーバス
実行委員会の捺印と
解説プレートを貼り付
けます。
- ・ベンチの製作は熟練の
職人さんが行います。
- ・座面下の持たせは、
松の小枝を使用する
など、オリジナルらし
いものに仕上がる予定
です。



高さ 430mm 幅 350mm
長さ 1,000または1,500mm

価格 25,000円
[長さ1,000mmでも1,500mmでも同じです]

松が未来に遺すもの

天橋立名松リパス実行委員会

中間報告書が発行されました！

128ページからなるドキュメンタリーです

ご希望の方は、事務局までお申し出ください。
なお、この記録集の代金は、すべてリパス基金に
させていただきます。ごうや、趣をおくみとりいた
だきに協力を願っています。



1冊 1,000円

(すべてリパス基金にさせていただきます)

■ 中間報告書の「葉」が 倒れた松から完成

この既完成したリパス活動中間報告書の中に
はさむ葉が、昨年の台風で倒れた松をスライスし
て出来上がりました。その際、加工をお世話にな
った特産町男山の岡植田建築代表者・植田泰史様
からメッセージを頂きました。

先ず、松材のスライス方法については、大体の
場合、卓上丸ノコを使用されるようですが、大き
な材になると帯ノコで切断されるそうです。また、
天橋立の松材を加工する際は、観光客など不特定
多数の人が集まる場所の松であるが故に、釘など
が材の中にある場合があり、材と一緒に釘もスラ
イスする時もあるので、表面の不自然なくばみな
どには注意が必要とのことでした。

そして、初めて天橋立の松を加工した時には大
変感動されたそうです。普通の松材なのだろうけ
ど「聖地の木」という雰囲気があったよっていたそう
です。この希少価値を今後大切にしたいと考え
られています。

植田さんのおっしゃる通りで、神が掛けた橋に
育った松が放つ荘厳な気配は、実際に加工された
方のみならず、私たちも思わず息を飲む時があ
ると思います。このような感覚を持たれた方に加
工をして頂き、心より感謝いたします。ありがと
うございました。

また、リパス実行委員会に対し、木の専門家
として常に的確なご意見をいただいています男山
製材所の高岡社長より、この冬、そして来春先の
松材の管理についてのアドバイスをいただきました。

製材を終えた松材は、機積みをして、風通しを
良くし、雨や雪のかわらない所で保管すること。
特に水に濡れることのないように管理することが
大切ということでした。

また、春先には乾燥もほぼ完了しているので、
乾燥した風にあたり割れることがないように風を
さえぎり、できれば室内で保管するのが良いと
のことでした。

いずれにしても、このような皆さまのご協力を
いただきながら実行委員会の運営が進められてい
るのだということをお知らせし、今後活動を継続
してまいります。

文字
↓
心をこめて再生しました。
印刷
大切にお願いいたします。



天橋立名松リパス実行委員会中間報告書 発刊

あの日から一年。倒れた松たちの教えに真剣に応えた活動の記録。

推薦の言葉

「生命再興の記」

作家 藤本香一さま



自然の旺盛が自然の生命を奪い去る。自然の姿が無残に変わる。その倒れた松の樹に再び生命の息吹きを与えようとする人々の息遣いが、名松リパスに結実した。貴重な報告書がこの一冊である。

「松が未来に遺すもの」

服飾評論家 市田ひるみさま



不幸にして倒れた松に、大げいの人の愛がそそがれた。名勝「天橋立」は、松の手足をリパス（再生）することでもみがえらうとしている。芸術的な可憐さに、私もみんなと手をつなぐでいいかなと思っています。

宮津高校の建築科の生徒 天橋立の倒れた松を活用



ままごとハウス
保育園に寄贈
 宮津高の建築科
 府立宮津高校の建築科の生徒がつくった「ままごとハウス」が20日、福知山市勤使の天津保育園へ贈られた。写真。小型トラックで運び、3年生ら約10人が担いで雪でぬかるんだ園庭に据え付けると、子どもたちの歓声が上がった。
 杉やヒノキの間伐材で建てた白木のハウスは縦

1・6段、横1・3段、高さ約2・2段。屋根は建材でふいた。設置した後、四方に幅約20センチのカウンターを取り付けた。板は昨秋の台風で倒れた天橋立の松を生かした。
 ままごとハウスは子どもたちに喜んでもらおうと、同校の建築科の生徒が5年前から製作。これまでに宮津市や京丹後市、野田川町の幼稚園や保育園に寄贈し、今回が8棟目になる。

実行委員会（幾世淳紀委員長）は、活動の中間報告書「松が未来に遺すもの」（A4判、128頁）を2000部発行した。



昨秋の台風23号などで倒れた天橋立（宮津市）のクロマツの再利用を考える天橋立老松リパース

台風被害

天橋立クロマツ再利用 「松が未来に遺すもの」

実行委 中間報告書を発行

報告書は同実行委発足1周年を記念し作製。活動をPRするため今年2月に開いたフォーラムや樹木医による研修会の様子、地元選出の谷垣禎一財務相、片岡鶴太郎さんの「ひとごとメッセージ」、経過報告などが掲載されている。
 1部1000円。文珠、宮津地区などの宿泊施設や土産物店などで販売され、収益金は同実行委の活動のための基金になる予定。【瓜生貴一】

松再利用の活動報告

天橋立の実行委、1周年機に

昨年十月の台風23号で、シヤ松の生態などを掲載した天橋立（宮津市）の松の再利用に取り組む「天橋立名松リパース実行委員会」（幾世淳紀委員長）はこのほど、台風襲来から一年間の活動をまとめた中間報告書を発行した。写真。全国から寄せられた応援メッセージ



天橋立の将来を考えるフォーラムや研修会を開く。創作拠点となる「天橋立の製材・管理をはじめ、天橋立の将来を考えるフォーラムや研修会を開く。創作拠点となる「天橋立名松リパース館（同市文珠）開設などの活動を続けてきた。
 報告書では、服飾評論家の市田ひろみさんや俳優の片岡鶴太郎さんら多数の著名人から寄せられた励ましコメントを紹介。また、大量の客土が松の根に与える悪影響や、密集で樹高が高くなりすぎている現状などを報告した樹木医の話も収録している。報告書（A4判、百二十八頁）は二千部作製。問い合わせは同会事務局 ☎0772-53004。

宮津女声合唱団が

「カムバック・フォレスト」に挑戦!

今から楽しみにしております



神山優子さんの圧倒的な歌唱力は、会場を魅了しました

八月三十一日、天橋立名松リバーズチャリティコンサートにおいて、初めて神山優子さんの歌を聴かせて頂き、強にまで田く歌唱力に感動致しました。そして、倉本麗さんが神山さんに託された「カムバック・フォレスト」が祈りの楳に静かにゆつくりと上へ上へとたち登ってゆくのを感じ、人も木も全てを抱み込む様な旋律がコンサートの後もずっと私の中で響いておりました。

この度、委世委員長を紹介して、神山さんに「カムバック・フォレスト」を宮津女声合唱団で歌わせて頂きたいとお願ひしましたところ、御快諾下さり、ピアノの安斎さんが合唱用に編曲くださった楽譜が届けられました。そして、神山さんがおつしやう下さいました。「いつか一緒に歌いましょうね。」

この曲の使命である自然回帰の祈りを込めて、宮津女声合唱団の持ち歌になるようにと願っております。天橋立名松リバーズ実行委員会の皆様方、ありがとうございます。これからも天橋立を通して、地域の復興のために頑張っております。

宮津女声合唱団 西村さま

ムジカASSO 代表 福田さんより

名松リバーズへおたより

天橋立名松リバーズ実行委員会のみなさんへ

先日11月27日(日)みやづ歴史の館 文化ホールにて、チャリティグリーンコンサートが無事開催させて頂く事ができました。天橋立名松リバーズ実行委員会の様かのご支援のものと、心より感謝しております。

今後とも練習を重ねていかなければと思ひます。ありがとうございます。

お礼まで

ムジカASSO

代表 福田洋子さま



●リバーズ館 来訪者の声

(名松リバーズ館 於)

・NHKテレビ「ふるさと」の主だったと思ひますが、とうろうが松林に並べられたのをみました。本当に市民の方々が「丸」となって行ったことで感動いたしました。物を大切にしている心にもつながり、良いことで見習いたいです。

札幌からまいりました

・すごいです!! 木も地球人(?)!!

・Vapey piece!!

自宅に欲しいです。将来購入したいです。

高いのかな...

また新たな作品を期待しています。

London留学中。

Naonoriさま

・昨年の11月頃、天の橋立に来て樹木を見て悲しい思ひをしました。今年も寄して頂いて、この樹木のリサイクルを見せて頂き感極まる思ひで一杯です。さつぱつとした時代に、まだ世の中はすてたものじゃないですね。天の橋立名松リバーズの方々に敬意を表します。

大阪市 田村至子さま

若狭 森林もりの会から

名松リバーズへおたより

突然おじやまします。

今年、天の橋立を訪れたところ、松がひどく弱っているのを見てショックを受けました。天の橋立の松は今まで元気だと思ひ喜んでいたのですが、やはり若狭と同じだと思ひ知りました。

若狭では、松はほぼ全滅。ここ数年コナラなどの広葉樹の立ち枯れも深刻さが増しています。これを何とかしようとして「若狭 森林もりの会」を立ち上げました。天の橋立で松を守るようにとされておるみなさまと連携ができればと思ひています。

23日に設立の会をおこないますが、1月21日の講演会はできたらきていただければと思ひます。立ち枯れから松や他の樹々を守るヒントを教えてください。今後はとも情報交換をさせてもらえたらありがたいと思ひます。よろしくお願いします。

とり急ぎ、乱文乱筆失礼します。

若狭 森林もりの会 徳田厚美さま

■ 名松リバーズ顧問の伊藤 武氏(樹木医)が、加悦の「千年ツバキ」を治療中

千年ツバキ守れ

加悦

綾部の樹木医 懸命の治療

京都府の文化財にも指定されている加悦町産の「千年ツバキ」が年老いて衰弱が自立つようになり、綾部の樹木医が治療に取り組んでいる。二十五日は経過観察を行い、「新たな根は伸びているがまだまだ、長い目で待ちましよう」と話した。



樹の成長を確認する樹木医の伊藤さん(左から)とリバーズ顧問(京都府加悦町産)

経過観察

「衰弱は慢性的」

正式にはクロツバキと
いう種類で樹齢は推定約
千二百年、幹回り約三・
二六メートル。老木のため、十
年ほど前から支柱を取り

付けるなど手当でしてき
た。数年前から花が少な
くなるなど衰えが深刻に
なり、腐った古い根を五
十センチほど切り、土を替
える治療も行った。

三年前から千年ツバキ
の治療に携わる綾部の
樹木医、伊藤武さん(左)
のこの日の経過観察で
は、所々に新たな根が伸
びるなど回復の兆し見ら
れたが「慢性的な衰弱
根から治さないと回復し
ない」との診断が出た。

今後は根の伸びを待つ
て有機肥料などを与える
予定。伊藤さんは「すぐに
良い結果は出ない、十年
ぐらいの期間を構えて考
えなければ」とじっくり
取り組む構え。地元も、葉
のつやが良くなったよう
にみえる。良くなったほ
しい」と願っていた。

府の文化財に指定

■ 名松リバーズ顧問の大槻美都さんが、10集目の歌集を出版されました

丹後の思い出詠んだ524首

宮津の歌人 大槻さん



米寿を記念し、10集目となる歌集「雪ぐれの里」を出版した大槻さん(宮津市文珠)

米寿記念、10集目出版

宮津市文珠に住む女流「里」を出版した。幼少期歌人、大槻美都さんがこを過した故郷や丹後でのほど、米寿を記念したの思い出を詠んだ短歌五十一集目の歌集「雪ぐれの里」百二十四首を収録。自身

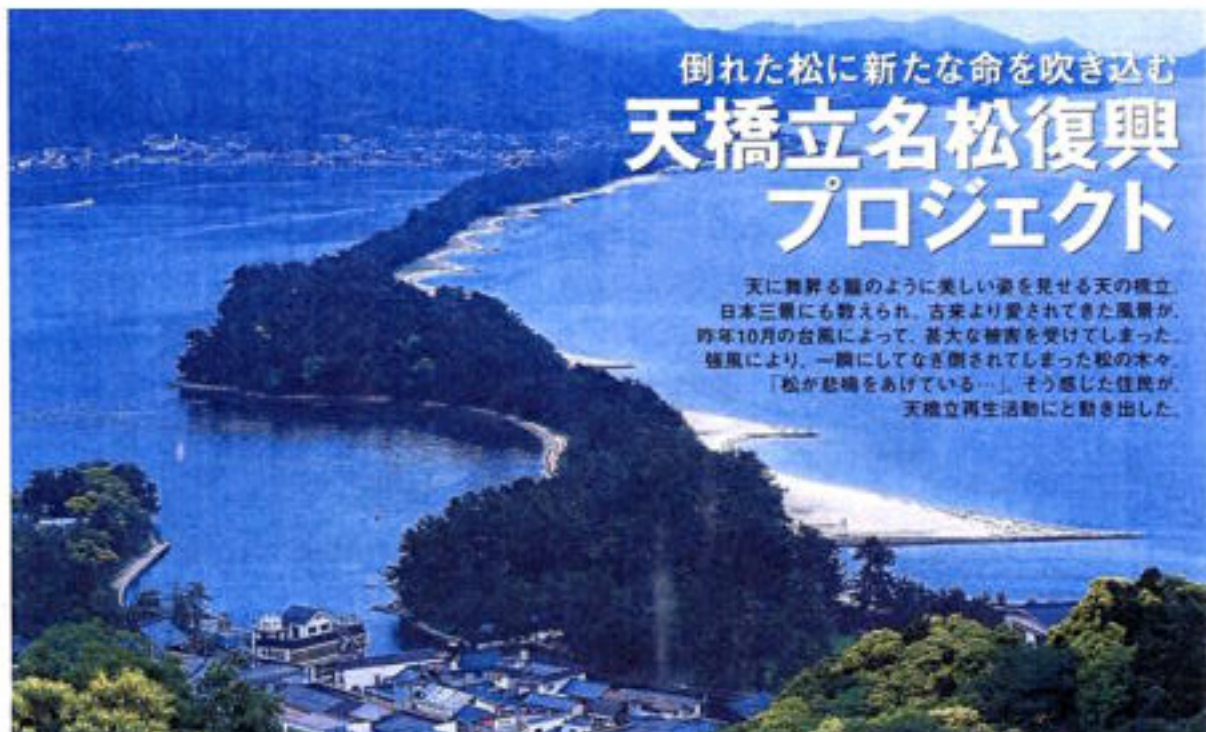
の人生の歩みをつづつて

大槻さんは兵庫県村岡町(現香美町)出身で、一九三四年に京都女子高等専門学校(現京都女子

大に入学後、短歌会「ハハキ」に入会。約七十
年間、ライフワークとし
て短歌に親しんできた。
米寿を迎え、これまでの
集大成として出版した。
歌集では「ひと貰つる
雪景なれど恐ろしきわれ
雪國に生れ暮らせは」と
雪深い古里の思い出を詠
んだ歌や、「入隊に続き
出征し戦死せし同級生の
数を指折る」など戦後六
十年を題材にした作品も

収めた。また、昨年の台
風災害で倒木した夫橋立
の松をテーマにしたもの
や、「孫娘へ」と題して
家族を詠んだ作品もあ
る。大槻さんは「できる
だけやさしい言葉をつか
い、スムーズに読者の心
に響く歌作りを心掛けま
した」と話している。

問い合わせは、あまの
はしだて出版部077-2
(22)0018。



倒れた松に新たな命を吹き込む 天橋立名松復興プロジェクト

天に舞昇る鶴のように美しい姿を見せる天の橋立。日本三景にも数えられ、古来より愛されてきた風景が、昨年10月の台風によって、甚大な被害を受けてしまった。強風により、一瞬にしてなぎ倒れてしまった松の木々。「松が悲鳴をあげている…」そう感じた住民が、天橋立再生活動に動き出した。



天橋立を襲撃した台風の強風によって次々と倒れた松の木は道はあまりにも無残



倒れた松にも命を 名松リバーズの活動

約8000本の松が倒木に覆われた、日本三景のひとつ天橋立。だが、昨年10月台風19号の影響で193本もの松が倒れるという、大きな被害を受けてしまった。そこで、立ち上がったのが、被災の人たちで組織する「天橋立名松リバーズ」

実行委員会だ。委員会は、松の再生活動を広く知ってもらうべく、北近畿タングリ鉄道天橋立駅構内に倒れた松を利用した作品を展示する「天橋立名松リバーズ展」を平成27年5月29日にオープン。展示場をはじめ、テニール、内装、ステージ舞台などもすべて倒れた松の木を併用している。

天橋立名松リバーズ

あまのほしてあいのしよりりばーず

天橋立を愛する多くの人たちが「松の想いを喜びに」との思いで設立。問合せは天橋立名松リバーズ実行委員会事務局 ☎0972-22-5305へ



1階は展示室、2階は創作室になっている



倒れた松の木を利用して生まれた作品



倒れた木の再生にかを注ぐ天橋立名松リバーズ実行委員会副委員長加藤紀子さん

成相寺 開山1300年祭 御開帳



2015年三十三の所置場第20番札所で、多くの人の参拝がある

願い事が成りあう寺として有名な慶雲元年(704)開基の古刹

開山1300年を記念して4月から各種の行事が行われていて、10月29日に五重塔落度法要、11月2日に御開帳法要・花火大会が開催される予定。

DATA 徳島津市成相寺339 ☎0772-27-0018 参入山500円 徳8~17時 徳無休 徳北近畿タングリ鉄道天橋立駅一徒歩5分の天橋立橋より遊覧船で12分、一の宮橋下船。徒歩5分の府中駅から乗車ケーブルまたはリフトで4~8分。乗車駅下車。乗車公園一豊山バス成相寺行きで8分。終点下車して 末縁徳島津路徳島天橋立IC一約10分・国道178号経由で約15分 徳80分

■宮津商工会議所 青年部 創立50周年
記念品(時計)に天橋立の倒木松を利用

宮津商工会議所 青年部のみなさんから
お礼状が届きました

本年「夢再び開くとき」をテーマに、宮津商工会議所青年部創立50周年を迎えました。その記念事業を行うにあたり、名松リバースを利用して頂き、復興・再生への思いを込め、また、我が町の更なる発展を思い、「再生の時計」と銘うって記念品を作製いたしました。



とても貴重な「天橋立の松」が、新たな息吹きを帯び、今後の新たな「時」を刻むとして受品者から大変喜ばれました。

作製にあたり、「松」を快く提供頂いた名松リバース実行委員会様をはじめ、ご協力頂いた関係者の方々にこの場をお借りして厚く御礼申し上げます。

●おたより

宮津市立図書館
池田幸恵館長さま

この度、左記の刊行物をご寄贈いただき厚くお礼申し上げます。
宮津市立図書館の資料として利用に供させていただきます。

天橋立名松リバース実行委員会中間報告書 1冊

■天橋立名松リバース館を
チャット、リニューアル



リバース活動のTV取材番組を放映中【本報】



天橋立で倒れた松材を
活かした作品を展示
【京都府立工業専門学校生 作】

●第14回 実行委員会の「案内」

12月25日(日) 午後8時より
KTR天橋立駅2F会議室で開催します。
万難を排して「出席のほどを！」

■12月5日(月)
京都府丹後土木事務所へ
リバース事業を報告し、話し合う

天橋立を守る会 森会長・名松リバース実行委員会 森世委員長・中井・細井両委員長・山本事務局長が、京都府丹後土木事務所へこの間のリバース報告を行い、以下、話し合いました。

- (1) 松伐活用件
- (2) 松の植ごこの活用
- (3) 「ピジターハウス(橋立資料館)建設の件
- (4) 倒木した松材を利用した創作物製作の件
- (5) 倒木松を町づくりで活用する件 等

京都府からは、府丹後広域振興局 栗田副局長・松浦土木事務所長・山本室長が出席されました。

天橋立名松リバース基金に
ご協賛いただきますよう、
心より切にお願い申し上げます

リバース物語も第二巻に入り、事業は順調に進んでいます。製作・創作などの費用捻出に感謝を贈っているのが実状です。竹幸、藤をおくみとりいただき、個人さま・企業さまからの、リバース基金へのご協力を切にお願い申し上げます。



天橋立名松リバース実行委員会
事務局

天橋立名松リバース基金
「ご協賛ありがとうございました」

2005年
12月分

- ・宮津天橋立観光協同組合さまより 密捨万円
- ・宮津天橋立観光協同組合 5万円
- ・宮津天橋立観光協同組合 シニア会さまより 5万円
- ・宮津天橋立観光協同組合 青年部さまより 密捨九万九千七百七拾円
- ・ムジカASOさま
- ・チャリティイベントグリーンコンサートより 五万円

■編集後記

2005年もあとわずかとなりました。この一年間「木は倒れても生きていく」「松の悲鳴をよるこびに」との一念でメンバー一同、多くの善意に支えられながら名松リバース活動に精力的に取り組んできました。お陰さまでリバースの取り組みが着実に根を張ってきたことを実感します。今後は、松材が地域の町づくりで活かせること、多くの人の留意とアイデアで素敵な創作物ができますことを期待しています。今冬12月は記録的大雪が続いています。樹木医の伊藤氏からも見舞いのTELEがありましたが、松のことが心配です。天橋立の松に雪害がないよう祈りながら、来る年を穏やかな新しい気持ちで迎えられたらと思います。

事 務 局 日 誌

- 11月4日(金) 第2回 天橋立周辺緑地観覧まちづくり検討会 宮本市労働会館 於
若狭湾生物同好会 天橋立公園編纂
- 5日(土) 大隈DRへ森創作副会長 河バス活動報告)
- 7日(月) リバーズ館 査閲査閲と松村を宮本市会へ搬入
三重県から中編会編纂 視察
- 9日(水) 京都伝統工芸専門学校 見学 磯世徳臣氏 山本事務局長 福巻隆徳広報部会長
- 11日(金) 第2回 天橋立公園の松並木と利用を考へる会 磯世徳臣氏 松天橋立を守る会会長
- 12日(土) 京都伝統工芸専門学校 開校十周年記念式典 磯世徳臣氏 山本事務局長
- 14日(日) 宮本市議会 議決委員会7名 末昭 山本事務局長説明
- 16日(水) 監査会
創作部会
- 17日(木) 第13回 実行委員会
- 21日(月) 創作部・部長 合同会議
プレス発表
- 22日(火) 第4回 京都観光ブランド推進研究会
- 25日(金) ムジカASSO チャリティグリーンコンサート
- 27日(日) 京都工芸伝統館(京都市)で制作中の『文殊菩薩』を視察(京都市山田利博)
公園内施設(椅子)製作について、京都府丹後土木事務所 打ち合わせ
岩瀬小学校 松村編纂
- 28日(月) NHK「西日本の輝」放映
- 12月3日(日) 屋久杉を守る会・屋久島観光協会会長 柴敏生氏 末梢
(株)関西総合研究所 主任専務 宮本三郎氏
クラフツワーズ 関西エリアアドバイザー 宮本茂樹氏 視察と懇談
- 5日(月) 京都府丹後土木事務所(京都府丹後広域振興局 栗田副局長)
松浦土木事務所(山本編纂)と天橋立を守る会・リバーズ実行委員会懇談会
京都府丹後広域振興局へ懇談報告書提出 山本事務局長
- 7日(水) 宮津天橋立観光旅館同組合 青年部との交流会 10名 磯世徳臣氏
ムジカASSO チャリティグリーンコンサート チャリティ基金発起
- 19日(火) 宇野野 昭・藤平「夫我の歌集」発行人会 寺島会会長・磯世徳臣氏
他
- 20日(火) 宮津天橋立観光旅館同組合 青年部さまよりリバーズ基金を頂く
- 21日(水) 京都府丹後広域振興局長との面談
- 25日(日) 第14回 実行委員会